

南米[ブラジル]



1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の農牧センサス（2006年）^{（注）}によると、農業経営体520万戸の所有面積は3億5490万ヘクタールで、このうち農耕地が7670万ヘクタール、牧草地が1億7230万ヘクタールとなる（図1、表1）。ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）によると、2015/16年度（10月～翌9月）には、5834万ヘクタールが穀物生産に向けられ、生産量は1億8661万トン（前年度比10.2%減）となった。

畜産分野では、2016年の牛肉および鶏肉生産量ともに米国に次ぐ世界第2位となった。また、豚肉生産量は中国、EU（28カ国）、米国に次ぐ第4位となった。輸出量は牛肉が世界第2位、鶏肉が第1位、豚肉が第4位となった。

2016年の農産物（農畜産物、林産物および水産物）輸出額は、主要貿易相手国であったベネズエラ向けの輸出が、同国での経済危機の影響で大幅に減少したことなどから、849億米ドル（同3.7%減）となった。しかし、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は713億米ドルとなり、農業部門が国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

注：2016年のセンサス調査は予算不足で翌年以降に延期

図1 ブラジルの行政区分



資料：機構作成

表1 農場面積と農場数の推移

（単位：千戸、千ha）

	1970	1975	1980	1985	1996	2006
農場数	4,924	4,993	5,160	5,802	4,860	5,204
農場面積	294,143	323,894	364,853	374,925	353,611	354,865

資料：ブラジル地理統計院（IBGE）

2 畜産の動向

（1）肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が中心で、耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が主に飼養されている。近年は、穀物生産が増加し、放牧面積が減少傾向にあることから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養管理も拡大している。

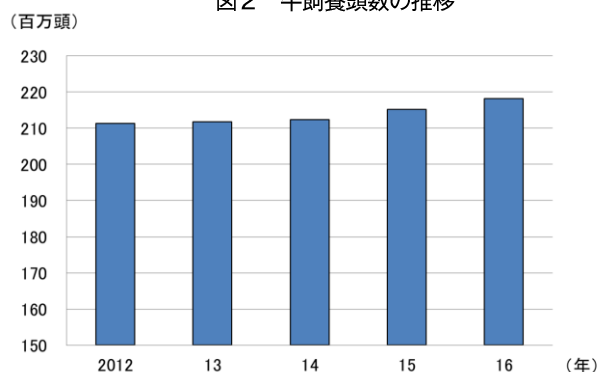
また、ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んだ結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国

際獣疫事務局（OIE）より同国初のワクチン非接種清浄地域のステータスを取得した。その他の地域は、ワクチン接種清浄地域となっている（2018年9月現在）。ブラジル農牧食糧供給省（MAPA）によると、将来的には、2023年までに、ブラジル全土で口蹄疫ワクチン非接種清浄地域を目指すとしている。また、BSEについては、2012年、2014年に非定型のBSEが確認されたものの、2018年9月時点ではOIEより「無視できるリスク」と評価されている。

① 飼養動向

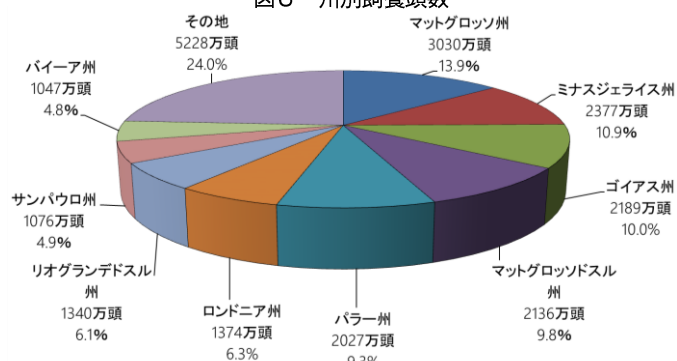
ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2016年の牛飼養頭数は、2億1823万頭（前年比1.4%増）となった（図2）。州別に見ると、前年に引き続きマットグロッソ州が最も多く、次いでミナスジェライス州、ゴイアス州、マットグロッソドスル州、パラ州と続いた。従来は、大消費地を含む南東部を中心に飼養されていたが、需要の高まりを受け、地価が安く広大な中西部での飼養が拡大している（図3）。

図2 牛飼養頭数の推移



資料：IBGE

図3 州別飼養頭数



資料：IBGE

② 牛肉の需給動向

ア 生産

米国農務省（USDA）によると、ブラジルの2016年の牛と畜頭数は3760万頭（前年比2.0%減）、牛肉生産量は928万トン（同3.1%減、枝肉重量ベース）となった。ブラジルのキャトルサイクルは、約7年周期で増減を繰り返すとされているが、2016年はその減少期の底に当たるとみられている。加えて、主産地である中西部地域での降雨不足も要因の一つとされている。



写真 ゴイアス州の放牧風景

イ 輸出

ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）によると、2016年の牛肉輸出量（製品重量ベース）は、107万6041トン（前年比0.3%減）となった（表2）。

背景としては、牛肉生産量の減少を受けて輸出余力が低下したほか、主要輸出先であるロシア向けが、同国のルーブル安に伴う購買力の低下を受けたことで大幅に落ち込んだことが挙げられる。

一方、特に上半期において、為替相場が米ドルに対してリアル安で推移したことにより、ブラジル産牛肉の輸出競争力は高く、他国からの引き合いは依然として好調である。中でも2012年のBSE（非定型）確認以降停止していた中国向けは、2015年6月の輸出再開以降、著しい伸びを見せており、2016年の同国向け輸出量は前年比69.0%増の16万4754トンとなった。

日本は、2012年にブラジルでBSE（非定型）が発生・確認されたことを受け、加熱牛肉製品の輸入を停止していたが、2015年12月に同製品の輸入を再開することで合意した。

表2 国別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2016年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
香港	181,292	718,344	3,962	9.5%	9.2%	▲ 0.2%
エジプト	164,903	528,246	3,203	▲ 7.4%	▲ 15.4%	▲ 8.7%
中国	164,754	702,766	4,266	69.0%	47.5%	▲ 12.7%
ロシア	130,604	389,769	2,984	▲ 23.0%	▲ 29.4%	▲ 8.4%
イラン	96,170	374,264	3,892	▲ 1.7%	▲ 2.2%	▲ 0.6%
チリ	70,078	296,016	4,224	29.4%	15.6%	▲ 10.7%
サウジアラビア	28,653	110,602	3,860	全増	全増	全増
その他	239,587	1,224,807	5,112	▲ 24.3%	▲ 28.6%	▲ 5.6%
合計	1,076,041	4,344,815	4,038	▲ 0.3%	▲ 6.8%	▲ 6.6%

資料：ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）

注：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

ウ 消費

ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB) によると、2016年の牛肉の国内消費量は、677万4000トン（前年比0.4%増）とされ、1人当たり年間消費量は32.9キログラム（同0.3%減）となった（表3）。消費量は、前年同様、経済成長率がマイナスで推移したことで消費が伸び悩んだことから、前年並みとなった。

表3 牛肉需給の推移
(単位:千トン、kg)

	2012	2013	2014	2015	2016
生産量	8,752	9,602	9,107	8,528	8,694
輸入量	60	57	77	59	65
消費量	7,128	7,652	7,126	6,748	6,774
輸出量	1,684	2,007	2,058	1,839	1,986
1人当たり消費量	35.8	38.1	35.1	33.0	32.9

資料：CONAB

注1：2016年は暫定値。

2：枝肉重量ベース。

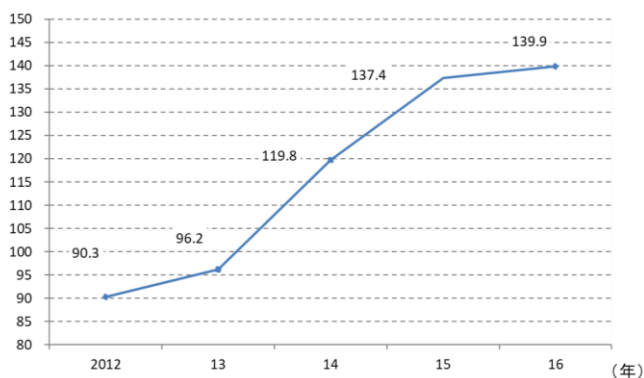
3：出典が異なるため、表2とは数値は異なる。

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム（1アローバ）単位で示される。2016年の肥育牛の平均価格（マットグロッソドスル州カンポグランジ市場）は、1アローバ（15キログラム）当たり139.9リアル（前年比1.8%高）であった（図4）。牛肉小売価格（ランプ）は、1キログラム当たり25.7リアル（同13.7%高）となった。

図4 肥育牛の生産者販売価格の推移

(リアル/15kg)



資料：Informa Economics FNP

(2) 養鶏・鶏肉産業

ブラジルブロイラー用ひな生産者協会 (APINCO) によると、2016年の鶏肉生産量は、リアル安となったことによる割安感からトウモロコシの輸出が大幅に増加した結果、南部を中心に飼料用トウモロコシ需給がひっ迫したことから、前年をわずかに下回った。

同国内の鶏肉生産は、第1位のBRF社と、第2位である世界最大の食肉企業のJBS社、また、第3位である農協系最大のパッカーのAURORA社がけん引している。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

CONABによると、2016年のブロイラー用ひなふ化羽数は、64億4500万羽（前年比0.8%減）、鶏肉生産量は、1352万4000トン（同0.2%減）となった（表4）。4月以降トウモロコシの不作に伴う飼料コスト高からパッカーの収益性が悪化し、6月以降減産調整や中小鶏肉企業の倒産が起こったことなどが要因とみられている。

表4 鶏肉需給の推移
(単位:百万羽、千トン、kg)

	2012	2013	2014	2015	2016
ひなふ化羽数	6,007	6,145	6,226	6,501	6,445
生産量	12,645	12,308	12,692	13,547	13,524
輸出量	3,918	3,892	3,995	4,225	4,307
1人当たり消費量	43.9	43.6	44.1	45.6	44.7

資料：CONAB

注：輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

イ 輸出

ブラジル開発商工省貿易局 (SECEX) によると、2016年の鶏肉輸出量は、395万9394トン（前年比1.8%増）と前年に記録した過去最高をわずかながら更新した（表5）。上半期（1～6月）がリアル安米ドル高の為替相場が追い風となり、前年同期比14.7%増の206万93トンと好調に推移した一方、下半期（7～12月）は、同9.2%減の189万9301トンとかなりの程度減少したため、通年ではわずかな増加にとどまった。

輸出先の内訳を見ると、最も多かったのはサウジアラビアで74万4973トン（同5.1%減）、第2位は中国で48万3769トン（同57.6%増）、第3位は日本で39万1992トン（同6.1%減）となった。

表5 国別鶏肉輸出 (2016年)

区分	2016年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
サウジアラビア	744,973	1,153,083	1,548	▲ 5.1%	▲ 14.8%	▲ 10.2%
中国	483,769	859,483	1,777	57.6%	41.4%	▲ 10.2%
日本	391,992	719,801	1,836	▲ 6.1%	▲ 14.0%	▲ 8.3%
アラブ首長国連邦	301,166	477,473	1,585	▲ 0.7%	▲ 6.1%	▲ 5.5%
香港	248,564	357,244	1,437	5.2%	21.8%	15.8%
南アフリカ	221,509	97,969	442	▲ 2.5%	▲ 15.7%	▲ 13.6%
クウェート	107,864	161,916	1,501	▲ 10.6%	▲ 14.9%	▲ 4.9%
その他	1,459,557	2,119,192	1,452	▲ 2.2%	▲ 8.9%	▲ 6.8%
合計	3,959,394	5,946,161	1,502	1.8%	▲ 4.6%	▲ 6.3%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

2：輸出量は製品重量ベース。

3：出典が異なるため、表4とは数値は異なる。

ウ 消費

CONABによると、2016年の1人当たり年間鶏肉消費量は、44.7キログラム（前年比2.0%減）となった（表4）。国内経済の失速に伴って、価格の高い牛肉からのシフトが進んだ結果、2014年、2015年と2年連続で増加していたが、2016年は安価な鶏肉でさえも消費量が減少することとなった。

② プロイラーの価格動向

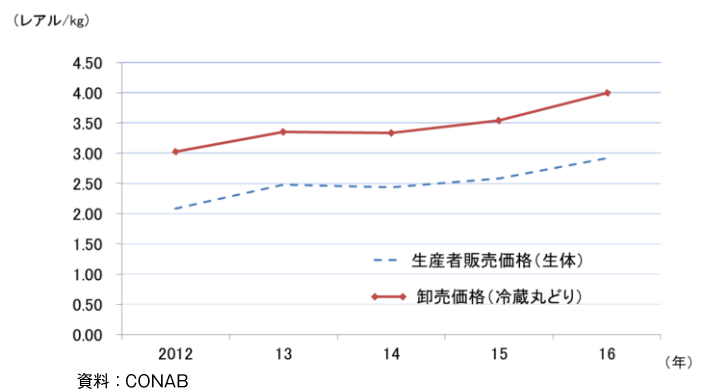
ア 生産者販売価格

CONABによると、2016年のプロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり 2.92レアル（前年比5.7%高）となった（図5）。

イ 卸売価格

2016年の冷蔵丸どりの卸売価格（同）は、鶏肉の引き合いが強まり、同 4.00レアル（同13.0%高）となった。

図5 プロイラー価格の推移（サンパウロ州）



3 飼料穀物

ブラジルの2016/17年度（10月～翌9月）のトウモロコシの生産量は世界第3位、輸出量は第2位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作（第1期作）と冬作（第2期作）の年2回行われる。同年度の第1期作はリオグランデス州（南部）、第2期作はマットグロッソ州（中西部）が最大の生産地となった。パラナ州をはじめ伝統的に生産が盛んな南部3州のシェアは生産量ベースで27.8%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部（マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州、連邦直轄区）は、同50.0%となった。

① 主要な政策

2016/17年度（会計年度7月～翌6月）は、MAPAが管轄する農業部門に対し、過去最大規模となった前年をわずかに下回る1838億リアル（前年度比2.1%減）が予算措置された（表6）。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移

（単位：億リアル）

農業年度	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17
総予算額	1,153	1,360	1,561	1,877	1,838
営農・販売融資	890	973	1,120	1,495	1,498
投資融資	263	384	441	382	340

資料：MAPA

営農・販売融資については、1498億リアル（同0.2%増）の予算が措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に係る経費を対象としている。また、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる。同予算のうち、157億リアルは、重要課題として継続実施されている中規模農業者支援国家プログラム（PRONAMP）に増額措置された。

投資融資については、340億リアルの予算が措置された。同融資には、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム（ABC）が含まれ、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行（BNDES）が融資を行う。ABCについては、29億9000万リアルの予算が措置され、金利は年利8.0～8.5%に設定された。同プログラムでは、有機農業プログラムへの適応、牧草地の回復、農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入などを奨励している。

② 飼料穀物の需給動向

2016/17年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産量は、9771万トン（前年度比46.9%増）と過去最高となった（表7）。

このうち、第1期作は、前年度の干ばつによる需給ひっ迫を受けて作付面積が増加した上、パラナ州を中心に天候に恵まれたことから単収も増加したため、同18.3%増の3046万トンとなった。

第2期作も、1期作同様単収が回復したことなどにより、同64.9%増の6725万トンとなった。

また、同年度の輸出量は、前述のとおり生産量が大幅に回復したことから、2900万トン（同53.6%増）と大きく増加した。国内では5617万トン（同2.8%増）が消費され、2020万トンが期末在庫として次年度に繰り越された。

表7 トウモロコシ需給の推移

（単位：千トン）

区分	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17
期首在庫	4,005	6,985	12,399	10,604	6,950
生産量	81,506	80,052	84,672	66,531	97,712
輸入量	911	791	316	3,338	700
消費量	53,264	54,503	56,611	54,640	56,165
輸出量	26,174	20,925	30,172	18,883	29,000
期末在庫	6,985	12,399	10,604	6,950	20,197

資料：CONAB

2016/17年度の大豆の生産量は、過去最高となる前年度比19.5%増の1億1408万トンとなった（表8）。主産地で、生育期の11～12月に適度な降雨を記録したことなどが要因としてあげられる。

作付面積については前年度をやや上回る3391万ヘクタールとなった。

なお、同年度の輸出量は6400万トン（同24.1%増）で、国内では4728万トン（同8.2%増）が消費され、期末在庫は457万トンとなった。

表8 大豆需給の推移

（単位：千トン）

区分	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17
期首在庫	448	744	1,552	929	1,476
生産量	81,499	86,121	96,228	95,435	114,075
輸入量	283	579	324	400	300
消費量	38,694	40,200	42,850	43,700	47,281
輸出量	42,792	45,692	54,324	51,582	64,000
期末在庫	744	1,552	929	1,476	4,571

資料：CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2016年のトウモロコシ生産者価格（サンパウロ州）は、増産に伴い輸出が増加したことで、国内需給がひっ迫したことから、60キログラム当たり36.79リアル（前年比50.4%高）と上昇した（表9）。

また、大豆生産者価格は国際市場からの好調な引き合いを受け、同72.8リアル（同16.5%高）となった（表10）。

表9 トウモロコシ生産者価格の推移（サンパウロ州）

（単位：リアル/60kg）

区分	2012	2013	2014	2015	2016
生産者販売価格	26.03	24.14	23.81	24.45	36.79

資料：CONAB

表10 大豆生産者価格の推移（サンパウロ州）

（単位：リアル/60kg）

区分	2012	2013	2014	2015	2016
生産者販売価格	58.8	58.4	60.5	62.5	72.8

資料：CONAB